

平成 27 年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業  
 (発達障害早期支援研究事業)  
 成果報告書 (概要版)

実施機関名 (日野市教育委員会)

1. テーマ

「学習の三段構え」による早期支援の方法論の開発  
 一斉授業のユニバーサルデザイン (UD) 化の研究実績を生かし、「個への配慮」「個への補充指導」が連動された指導の具体的な在り方を追求する。

2. 問題意識・提案背景

授業の UD 化を前提に行う学習の三段構えの方法についての研究である。  
 三段構えとは、①「授業の工夫」②授業中の「個への配慮」③授業の外で行う「個に特化した指導」の 3 層の配慮を行い一人一人の学習を保障する方法である。  
 「特別支援教育に関する知識・専門性の向上」という視点と「教科教育 (授業)」の視点を通して早期に課題のある児童・生徒を発見するという方法論である。この方法論は、診断が付くのを待つことなく、授業に必要な支援の早期介入が可能になる。  
 課題は、一斉指導における指導の質の担保、向上である。日野市では全小中学校で環境の UD 化として取り組んだ「ひのスタンダード」や 2 年間の授業の UD 化を実現する研修会と研究授業を行った実績がある。これらを土台に「学習の三段構え」による早期支援の方法論の開発を行う。

3. 指定校について

(小学校)

指定校名：日野市立日野第三小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	64	2	59	2	67	2	44	2	70	2	60	2
特別支援学級	4		5		6		1		7		2	計3
通級による指導 (対象者数)	3		6		8		6		3		8	計2
	校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他		計
教職員数	1	1	23	1	3	1	1	3	1		3	38

※特別支援学級の対象としている障害種：知的障害

※通級による指導の対象としている障害種：言語障害

(中学校)

指定校名：日野市立大坂上中学校											
	第1学年				第2学年				第3学年		
	生徒数		学級数		生徒数		学級数		生徒数	学級数	
通常の学級	183		6		153		4		175	5	
特別支援学級	11				7				8	計4	
	校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	1	28	1	8	1	1	2	1	3	47

#### 4. 指定校における取組概要

##### ①目的・目標

まず一斉授業において「どの児童・生徒にも分かる工夫＝ユニバーサルデザイン化」を図る授業づくりの取組を継続的に行い、授業づくりのプロセスと、授業後の評価から「つまずきのある児童・生徒」の特定を行う。その視点で、授業内の「個への配慮」を行い、その方法論だけでは授業の理解困難な児童・生徒に対しては「個に特化した指導・教科の補充指導」を実施する。この一連の流れを組み込んだ授業を、年間を通して行い、学級全体の児童・生徒の変容と、支援を要する児童・生徒の変容を記録し、この方法の妥当性の確認と、どの学校でも継続可能な方法へのヒントを得るために基礎データの収集を行う。

下記の図が研究の柱を表した授業の三段構えの構成図である。

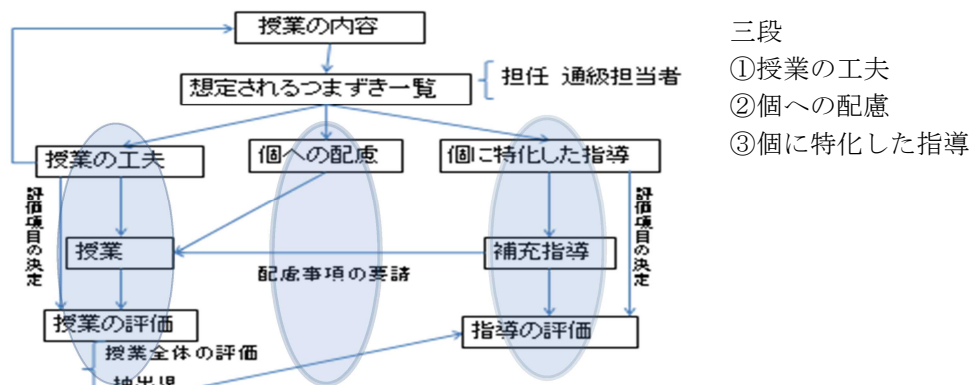


図1 「学習の三段構え」の構成図

##### ②学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒の明確化

本研究においては、つまずきを起こしている児童・生徒の発見ではなく、つまずきを起こす可能性のある児童・生徒に重点的に取り組むことで発達障害の可能性のある児童・生徒の早期の気付きを実現することを主眼とする。最も重要なのは授業前の「つまずき分析」である。授業展開の際に個々の児童・生徒に想定されるつまずきを明らかにし、それを補う指導案を作成する。また、想定したつまずきの発生の有無は、実態把握に反映できるデータが得られたと考えることができ、さらなる不適応の防止、あるいはその児童・生徒に発達障害の早期発見が可能になる。

##### ③学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容

###### ・授業（一斉指導）における指導方法の工夫内容

本研究においては「授業の工夫」とは「授業のユニバーサルデザイン化」と同義である。この方法論は、日野市で「ひのスタンダード」と名付けてきた「授業環境の整備」の方法論と、前述してきた実践研究の成果である。

###### ・放課後補充指導等の個別の指導における指導方法の工夫内容

学習支援室（リソースルーム）を活用しての実践を行う。本市リソースルームでは大きく二つの学習内容を行っている。まずは学習に遅れのある児童・生徒を対象にして、分か

らないところに戻ってボトムアップを行う「基礎指導」と名付けた学習課題と、授業を前提とした「補充指導」を明確に区別して個別の指導を考える。分からないところまで戻っての学習は非常に重要であるが、一方、その時点で行われている授業が分かるようになるわけではない。授業の補充指導は授業内容を理解するのに役立つが、学習の遅れの根本的な解決にはつながらない。この二つの視点を一人一人の児童・生徒の実態に合わせて適切に組み合わせて行う事例を積み上げ、その手続きがどの学校でも行えるように方法論としてまとめる基礎データを収集する。

なお、発達支援アドバイザーは2名配置し、小学校においてユニバーサルデザイン授業研究での教員指導を8回程行い、中学校においては、個別支援の必要な生徒の観察と指導方法等のアドバイスを20回程行った。

#### ④学習面や行動面で困難を示す児童生徒に対する支援内容の妥当性の評価手法

##### A. 一斉授業の評価

従来の教科教育の評価・学習指導要領に定める目標に準拠した目標の達成に準じて行う。授業時に使用したノート、ワークシート等を活用して評価する。

##### B. 個別的配慮の評価

Aの達成が目標である。さらに、事前に想定したつまずきが個別的配慮によっていかにクリアできたかを評価する。研究授業での、行動観察により、どうつまずき、どう乗り越えたかのデータを収集し、協議会等で評価する。

##### C. 補充指導の評価

個別の場（日野市ではリソースルーム）や特別な場（通級指導学級）での補充指導については、習得状況と、授業の理解にどれだけ貢献したかと合わせて検討する。

また、全体の教育効果の評価は、どれだけ「特別な支援」を減じて行けたかを評価したい。つまり、一斉での授業の工夫において理解できるようにするのが理想的な支援の姿だからである。

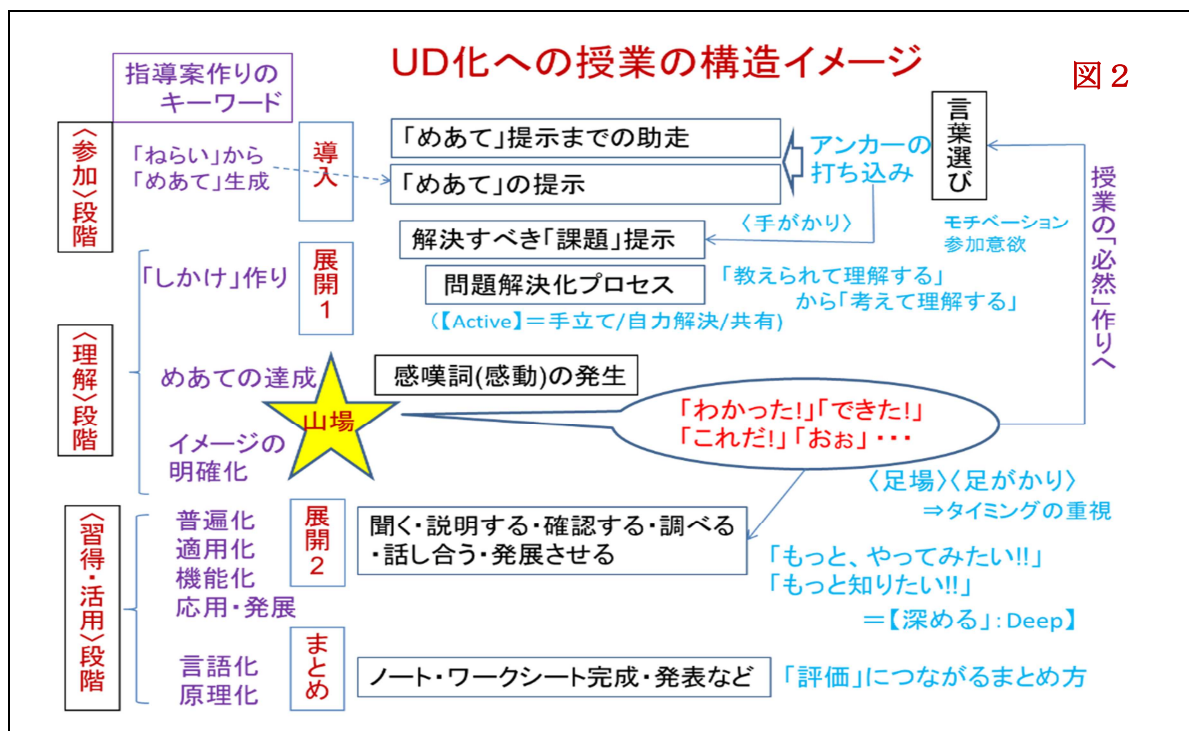
## 5. 主な成果

市内全小中学校25校で行われたUD化の授業研究では、授業でのつまずきを想定し、三段構えの授業を追究できた。それによって当初の予定通り、早期支援の必要な児童生徒の発見、想定外のつまずきに目を向けることができた。

しかし何よりの成果は、教師が児童生徒のつまずきに目を向け一斉授業の工夫をすることで、発達障害の児童生徒だけでなく、どの児童生徒にとっても学びの質が格段に違ってくると実感し、授業改善の視点を得たことである。

「授業構造のUD化」にあたって図2をひな形として展開を行った。「授業構造のUD化」に、効果的な実践データの収集ができ、成果物として全25校の実践を冊子にまとめることができた。授業実践を続けたことによって、このひな形そのものの進化も生まれていることを成果として記述しておきたい。

また、個の配慮については、何のために行うのかと言えば、授業に戻すためである。まず、戻すべき授業が、そもそも、その児童・生徒を含めた展開となっているかが前提にあり、その上で個別の配慮を考えるという順序があるべき順序であることを確認することができた。



## 6. 今後の課題と対応

「個に特化した配慮」の内容については今後の課題として残った。発達障害の可能性のある児童生徒の個々の学習でのつまずきに対するさらに詳細な実態把握とそこに対応させた支援や教材に対する追究である。そしてその効果を検証することを今後の課題として追究したい。具体的には、個々の児童生徒がどのようなところでつまずきが生じているのか。例えば、「書くこと」に困り感を抱えているならば「書くこと」のどこなのか、文字の形をとらえられないのか、文章が書けないのかなどより詳しく把握し、そこに対応した支援を行うことである。

検証のためには、一斉授業での「授業の工夫」と授業内での「個への支援」の在り方の追究を引き続き進めながら、授業外での「個に特化した配慮」の在り方の検証をすることである。

また、一斉に行われる授業に戻って効果が上がるためには、どのような支援が効果的なのかといったことの追究と検証も必要であり、平成28年度以降の研究内容としたい。

## 7. 問い合わせ先

組織名：日野市教育委員会

- (1) 担当部署                   日野市教育委員会 教育部 学校課
- (2) 所在地                    日野市神明 1-12-1
- (3) 電話番号                 042-585-1111
- (4) FAX 番号                 042-583-9684
- (5) メールアドレス         sidou@city.hino.lg.jp